

ROCKY ROOF CARRIER

SAシリーズ ルーフキャリア取扱い説明書

SA-08 (H40系 レジアスパン専用タイプ)

この度は、ロックールーフキャリア「SAシリーズ」をお買い上げいただき、ありがとうございます。

常に安全にご使用して頂く為に、「取扱い説明書」をよくお読みの上、正しくご使用ください。

尚、販売店にて本製品を取付けられましたら、本書を必ずお客様にお渡しください。

製品(組立て・取付け等)についてご不明な点は、お買い求めの販売店又は弊社までお問い合わせください。

誤った組立て、取付け、使用による事故等の責任は一切負いかねますので、ご了承ください。

積 載 物 に つ い て

◆最大積載質量は、**60kgまで**です。過積載しないでください。

車種によっては、60kg未満でも屋根が変形する場合がありますので、強度に応じて荷物を積載してください。

◆本製品は荷物用の積載です。次のものは、積載しないでください。

〔スキー板・ストック・スノーボード・サーフボード・自転車・コンテナ・ウィンドサーフボード〕
ポール・ブーム・ポート・カヌー・カヤック等

◆**下記の大きさを越える荷物は積載しないでください。**

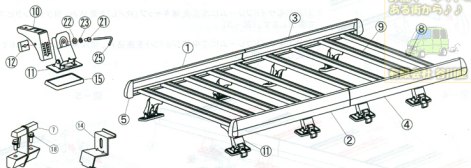
品 番	積載物の大きさ(長さ×幅×高さ)
SA-08	240~2600×1150×600

構 成 パ ー ツ

構成パーツは検査済みですが、組立を行う前に必ずご確認ください。

①	サイドフレーム長(前/右)	1	⑩	脚ステー	8	⑯	タッピングビス	4
②	サイドフレーム長(前/左)	1	⑪	脚セット	8	⑰	キャップボルトセット M6	16
③	サイドフレーム短(後/右)	1	⑫	ステーナット	8	⑱	キャップボルト M8	8
④	サイドフレーム短(後/左)	1	⑬	ステープレート	8	⑲	平座金 M8	8
⑤	先端キャップ(R)	2	⑭	取付フック	8	㉑	バネ座金 M8	8
⑥	先端キャップ(L)	2	⑮	ベースゴム (TYPE 1)	8	㉒	キャップボルト M6	8
⑦	中間ジョイント	2	⑯	ナットプレート	8	㉓	L型レンチ	1
⑧	脚フレーム	4	㉑	クリップナット	18	㉔	塩ビテープ	8
⑨	荷台フレーム	5	㉒	六角ボルトセット M6	22			

⑩クリップナットは⑧脚フレームと⑨荷台フレームに組付け済みです。



ROCKY 株式会社 横山製作所

〒463-0081 名古屋市守山区川宮町 207 TEL 052-794-1325 FAX 052-791-2403

<http://www.rocky.ne.jp>

rocky@rocky.ne.jp

◆シグナルマークについて

シグナルマークは危険のレベルを表します。

それぞれのマークの内容をよくご理解頂いた上で、必ず記載の注意事項を守ってください。

△危険………取扱いを誤った場合に死亡・重傷の危険が発生します。

△警告………取扱いを誤った場合に死亡・重傷の危険が発生する可能性があります。

△注意………取扱いを誤った場合に軽傷を負うか、物的損害を負う危険が発生する可能性があります。

組 立 方 法

図-1

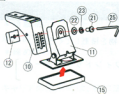


図-2

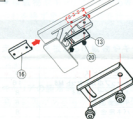


図-3

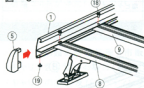


図-4

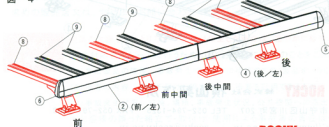
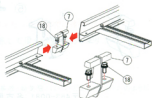


図-5



組立手順

◆脚部の組立

- ①脚セットに⑮ベースゴムを組付けします。(図-1)
- ②脚ステーと①脚セットは、下記の表を参照して、仮組付けをします。(図-1)
(車両に取付ける際に角度調整を行いますので、必ず仮組みにしてください。)

	前 (左・右)	前中間 (左・右)	後中間 (左・右)	後 (左・右)
位置	⑥	②	①	①

- ③脚フレームに⑮ナットプレートを通し、①脚セットを①ステープレート(向きに注意)と②キャップボルト M6 で仮組付けをします。(図-2)
その時、①脚セットの「前・中間・後」用を間違えない様に注意してください。

◆本体枠の組立

- ①②サイドフレーム長(前/右/左)に③脚フレーム(前/前中間)と④荷台フレームを⑤六角ボルトセットM6で組付けます。(図-3/4)
- ③④サイドフレーム短(後/右/左)に③脚フレーム(後中間/後)と④荷台フレームを⑤六角ボルトセットM6で組付けます。(図-3/4)
- ①②③④サイドフレームに⑤⑥先端キャップ(R/L)を差込み、⑦タッピングビスで固定します。(図-3)
- ①②③④サイドフレームに⑦中間ジョイントを差込み、⑤六角ボルトセットM6で固定します。(図-5)

◆ご使用前に

△警告 車種・年式により取り付くキャリアが異なります。組立て・取付け前に、車種別適用表を再度ご確認ください。

△警告 本製品の改造は絶対に行わないでください。

【例】・荷受け部の全面に板等を敷く。・部品類の穴あけ／溶接等。・本製品以外の部品による組立て及び部品交換。

＊看板等の取付けによる事故の責任は一切負いかねますので、ご了承ください。

△注意 キャリアを取付けたまま洗濯機にかけないでください。

＊キャリアに無理な力がかかり、屋根の変形等の損傷を車に与えます。

取 付 け 方 法

△注 意

- キャリアの取付け時は、必ず二人以上で行ってください。
- ルーフのキズやへこみ、キャリアの破損の防止になります。

図-6

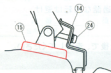
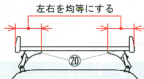


図-7



◆キャリアの取付け

1. キャリアの前後に注意して、二人以上で屋根に載せます。
2. ⑬ベースゴムの据わりを確認しながら取付け位置を調整し、⑭取付けフックを仮組付けします。(図-6)
3. ⑯キャップボルトセット M6 で⑧脚フレームと⑪脚セットを固定します。
その時、キャリアの枠が左右均等になるように、間隔を調整します。(図-7)
4. ⑫脚ステーと⑪脚セットを⑬キャップボルト M8 で締付けます。
⑯キャップボルト M8 を締め付ける際は、⑬ベースゴムの底面が、屋根上面になじむように角度調整を行ってから、確実に締め付けてください。(図-8)
5. ⑭取付フックを⑮丸ネジセット M6 で締付けます。
その時、アウタークランプのツメが掛かっている事を確認してください。(図-9)
6. キャリアを取付け後、⑯塩ビテープを必要の長さにカットして、
⑧脚フレームのスライド穴を、塞いでください。(図-10)
＊風切音防止の為、必ず貼ってください。

△警 告

- ＊キャリア取付け後は、キャリアを「前後左右」に揺すり、ガタツキが無いことを確認してください。
ガタツキのある場合は、再度取付け直してください。

図-8



図-9



図-10



△注意 積 載 方 法 に つ い て

- ・キャリアのサイドフレーム(横枠)の上に荷物を積載しないでください。
 - * 積載が確実に固定できない為、脱落事故を起こします。
- ・積載物の重量は、偏らない様に均等にし、ゆっくりと積載してください。
 - * 偏った積載は、キャリアや屋根に負担がかかり、キャリア・屋根等が変形することがあります。



△注意 脱 落 事 故 防 止 の た め に

< 走 行 前 >

- ・走行前には、積載物が確実に固定されていることを確かめてください。
 - * 積載物がガタツキ、脱落事故を起こします。
- ・走行前には、必ず各締め付け部にユルミが無いかを点検してください。
 - * 締め付け部にユルミがあると、思わぬ脱落事故を起こします。

< 走 行 中 >

- ・キャリアの使用時は、特に法定速度を守り、急発進・急ブレーキ・急ハンドル等の過酷な運転は避け、悪路では徐行してください。
 - * 積載物やキャリアがズレる等、危険な状態に変化することがあります。
- ・やむを得ず急ブレーキ等を行った時は、速やかに停車し異常が無い事を確認した後で、走行してください。
- ・高速走行や強風時は、より多くの風圧がかかるため、十分ご注意ください。
- ・走行中に屋根から積載物やキャリアのガタツキ音等の異常音が聞こえた場合は、速やかに停車し、積載物やキャリアの状態を確認してください。
 - * “ビュービュー”という音は、キャリアの風切り音ですので、異常音ではありません。
- ・キャリアの装着時及び荷物を積載している時は、車両の地上高が高くなるため、駐車場の・高架等の高さ制限がある場所を通過する場合は十分ご注意ください。

< 走 行 後 >

- ・初期ユルミが発生しますので、初回30キロ走行後には必ず各締め付け部を増締めしてください。

△注意 保 管 方 法 ・ 保 守 に つ い て

- ・本体・ねじ類の防錆処理を市販の防錆剤等にて、組立て時及び1ヶ月に一度は行ってください。
- ・キャリアを保管する場合は、きれいに清掃し、防錆処理を行った上で、湿気の無い所で保管してください。
- ・キャリアの塗装及びコーティングにキズ等が付きましたら、その部分からサビが発生することがありますので、タッチペン等で補修してください。

◆部品交換について

部品を破損・紛失された場合は、ご使用のキャリアの品番及び「本書」の構成パーツ表の各部品名にて、お買い求めの販売店又は、弊社までお問い合わせください。

事故が 起きた時

製品の欠陥などにより万が一事故が発生した場合は、速やかに販売店または当社までご連絡ください。
事故対応をスムーズに行うためにも、お客様に以下のことをご用意して頂く必要があります。

- (1) 事故製品の確保…事故発生時のままの状態のもの(製品をバラしたりしない)
- (2) 損害の内容…損害を受けた現物、また、損害を証明できるもの
- (3) 事故発生状況…日時、場所、事故発生状況、公共機関への届出(事故・紛失届)(いつ・どこで・何が・どのように)

* お客様の誤った組立て・取付け・使用による事故等の責任は一切負いかねますのでご了承ください。